

## 第2回新居浜市福祉のまちづくり推進懇話会議事録

日 時：平成22年9月9日（木） 15：30～17：00

場 所：市役所 3階応接会議室

出席者：岡崎 克也、白石 文男、合田早百合、田中 真澄、小野 和子、  
河端 幸枝、近藤日左臣、植木 芳江、大橋 勝英、森田まゆみ、  
和田 卓巳、和田輝世伸、遠藤 敦子、佐々木俊洋、明智 美香  
計 15名

（オブザーバー）ジェイエムシー株式会社 武内

（事務局）近藤 清孝、神野 洋行、伊藤 微笑、横山 倫代

### 議事内容：

#### 1. 開会

#### 2. 議 事 内 容

##### （1）アンケート調査結果等の報告について

平成22年7月に新居浜市在住の満18歳以上の男女2,000人を対象に行ったアンケート調査の結果について、項目ごとに説明を行った。

また、関係団体への新居浜市及び新居浜市社会福祉協議会が実施したアンケート調査、ヒアリング調査の結果について、説明を行った。

続いて、今年度、「地域福祉」を課題に行われたまちづくり校区集会で聴取された市民の意見について、報告を行った。

これらの説明、報告に対し各委員から、市民に対するアンケート調査結果についての意見は次のとおりである。

・回収状況が、調査票配布数2,000人に対して913人と回収率が低い、目的を達成できているのか。また、2,000人とした理由は何か。

→回収率が低いことについては、反省材料である。2,000人の設定は長期総合計画の市民アンケート調査が3,000人であったため、近い数字に設定した。回収率については、地域福祉計画を策定するために行われた他市のアンケート調査の状況も50%前後が多いようである。地域福祉に対する関心の薄さの現れではないかと感じられる。市民のアンケート以外にも団体に対する調査を行っているため、基礎的資料の一つと捕えていただきたい。

・答えの一部を校区別に割合で表示しているが、別子山、大島校区の結果が府に落ちない。

→別子山・大島校区の回答数が少ないため、割合が極端になっているが、公表する際には、一律に校区別に割合を出さないよう配慮を行いたい。

・答えの一部を年齢別に割合で表示しているが、20歳未満については回答数が少ないはずで、そのせいか割合の数字と分析の文章が合致していない。

→データの出し方については誤解を与えることのないよう、男女別にするか、10歳きざみを見直すか等の検討をしたい。

・心配事やぐちを聞いてくれる人、面倒をみてくれる人等を答える項目で、答えの中で民生委員の回答が大変少ない。家族と答えた方が多いことは喜ぶべき

ことか、もしくは民生委員は必要ないということか。

→この質問は上位3つを選んで回答する問い方になっており、民生委員より家族・親戚・友人等を上位に選んだ方が多かっただけで、決して民生委員が必要ないというわけではない。逆に考えると近所の人を選ぶ方が多かったということは地域のつながりがあると取れるのではないかと思う。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局より今後のスケジュールについての説明、第5次長期総合計画素案の地域福祉フィールドの内容について説明を行った。

第3回推進懇話会では、今回のアンケート調査結果等の分析、また現在策定中の第5次長期総合計画の内容と整合を図りながら、施策展開について具体的な協議を行いたい。長期総合計画については、10月下旬には審議会から市長へ答申され、12月市議会において計画案が上程される予定である。従って12月に開催予定の第4回推進懇話会では計画書の素案を提示したいと考えている。

スケジュールに関して委員より次のような意見があった。

・たった5回の会で計画はまとまるのか。

→会の回数が多いと委員の皆さんの負担も増えることから、少ない回数で精力的に議論していきたいと考えている。

(3) その他

次回以降、議論が活発になるような資料を整備し、迅速で効果的な議論ができるようにしていきたい。

以 上